

事業所における自己評価総括表

事業所名：つむぎ

保護者評価実施期間：令和8年1月29日～令和8年2月10日

保護者評価有効回答数：対象者33名 回答者数31名

従業者評価実施期間：令和8年1月29日～令和8年2月10日

従業者評価有効回答数：対象者数8名 回答者数8名

令和7年度に実施した自己評価（保護者・職員）を踏まえ、当事業所の運営状況について以下のとおり総括する。

本年度の評価では、多くの項目において高い満足度が得られており、特に「支援計画の適切な作成」「保護者への説明」「日常的な情報共有」「子どもの通所満足度」等において、非常に高い肯定的評価が得られた。また、「子どもが楽しく通所できている」「事業所の支援に満足している」といった項目においても高い評価を得ており、日々の支援が安心感と信頼関係のもとで提供されていることが確認できた。

環境面においては、活動スペースの確保や職員配置について概ね適切との評価を得ており、児童の特性や活動内容に応じた環境調整および人員配置が機能していると考えられる。さらに、個別支援計画の作成においては、保護者や関係機関との連携を通じてニーズを多角的に把握し、支援へ反映できている点が当事業所の強みである。

支援内容については、小集団での関わりを通じたコミュニケーション支援や、個々の特性に応じた個別対応が評価されており、一人ひとりの成長に応じた丁寧な関わりが継続されている。

また、送迎時の引き継ぎや連絡帳、電話・LINE等を活用した日常的な情報共有により、保護者との信頼関係の構築が図られている。

一方で、保護者同士の交流機会については、「希望しない」とする意見が多い一方で、「希望する」声も一定数見られ、ニーズが多様化していることが明らかとなった。このことから、従来の全体的な保護者会の開催にこだわるのではなく、今後は希望者を対象とした少人数・テーマ別の相談機会や、個別相談の充実等、参加しやすく負担の少ない形での支援体制の構築が必要である。また、非対面での情報提供や相談手段の活用を含め、各家庭の状況に応じて支援が届く仕組みづくりを進めていく。

加えて、活動プログラムに関する費用については、保護者の理解を得ながら、内容や目的を丁寧に説明し、意見を踏まえた検討を継続していく必要がある。

今後の方向性としては、現在の強みである「個別支援の質」「関係機関との連携」「保護者との丁寧な情報共有」を維持・強化しつつ、

- ・児童の興味関心を活かした活動内容のさらなる充実
- ・保護者支援の多様化（個別・少人数・非対面の活用）
- ・職員の専門性向上および支援の質の向上

に取り組んでいく。

引き続き、児童一人ひとりの成長と安心できる居場所づくりを大切にしながら、保護者および関係機関との連携を深め、より質の高い支援の提供に努めていく。